

学びだより

『夢中で学ぶ子』

～進んで対話し、根拠をもとに自分の考えを豊かに表現する力を育む授業づくり～

和泉市立信太小学校
授業改善担当 辻川翔太
令和4年11月15日
第5号

1年生 算数「くりあがりのたし算」

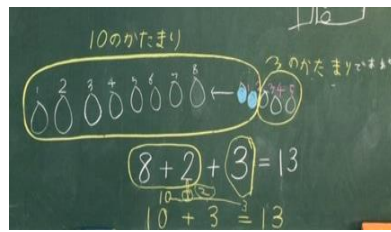
10月20日(木)5時間目に、1年2組で算数の研究授業を行いました。単元は「くりあがりのあるたし算」です。この日までに、子どもたちは「10より大きい数」や「答えが10以下のたし算」を学習してきました。当日は「くりあがりのあるたし算」の導入でした。答えが10より大きくなる計算に初めてチャレンジしました。

この単元では、「10のまとまりに着目して、計算の仕方を考え、根拠を明らかにしながら説明すること」を大切にして取り組みました。問題文は次の通りです。

れいぞうこに、8このたまごが はいっています。いちごケーキをつくるために、あたらしく5このたまごを かいしました。あわせて たまごは なんこになりますか。

問題が示されると、子どもたちは答えが「10をこえている」ことに気づきました。そして、指で数えたり、冷蔵庫に入っていた8個から「9, 10, 11, 12, 13」と数え足したりして、答えが「13」になることは分かったようでした。

しかし、違う見方を働かせて考える人もいました。足す数である5から2を取り出し、足される数の8に合わせる考え方です。10のまとまりを作って考えたようです。先生は、その考えを取り上げ、みんなで話し合うことにしました。図をもとにして考えることで、10のまとまりに着目する人が増えていきました。でも、まだ上手く説明できない人もいます。だから、ペアの友だちと説明しあったり、何人か前に出てきて説明したりしました。



答えが分かっているにもかかわらず、「数えなくても足せる方法」について懸命に考えていました。算数は答えが出たら終わりではありません。学びを深めるためには、「分かっているけれど、上手く言えない状態」が大切です。そこで、あきらめずに、自分らしい考えで、自分らしい表現をすることで、本当の「わかる」につながります。正解や不正解にこだわるだけでなく、「仲間の考え」に寄り添うことで、自分の考えが広がり、深まります。たくさんの先生が参観される中でしたが、仲間の意見を大切にし、図を根拠にしながら計算の仕方を説明する1年生の姿を見ることができました。

今後も10のまとまりに着目し、図を用いて説明し合う活動に取り組んでいきます。

さて、1年生の算数ノートを見ると、自分の考えが図や言葉で書かれています。算数ノートは黒板を写すためのものでも、正しい考えや答えだけを書きならべるものでもありません。「考えの途中」を書くものです。また、自分の書いた図が何を表しているのか、なぜそういう図、数字になるのかを短い言葉で書いていきます。

下記のノートは、どのように考えたのか「考えの途中」が分かるノートです。「答えなんて、すぐ分かるし、途中なんてない。」と思う人もいるかもしれませんが。その人も、「その答えにどうやってたどり着いたのか」を、よく振り返って書いてほしいと思います。

人はいろいろなことを思いながら考え続ける生き物です。どうかその「いろいろなこと」をノートに残せるようになるといいですね。

